

平素より医療関係者・介護関係者のみなさまには、若松在宅医療・介護連携支援センターの事業にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

【研修会のご報告】

○去る9/12（木）、11/18（月）にて、「ACP（人生会議）について知ろう！やってみよう！」というテーマで若松区多職種連携研修会を開催しました。今年度は、若松区内の医療関係者、介護関係者などの専門職だけではなく、地域で支援を行っている民生委員・児童委員の方々、校（地）区社協の方々にもご参加いただきました。

1回目：ACP（人生会議）についての講演+パネルディスカッション

講師にケアプランサービスけやき 管理者 清尾雅幸氏を迎え、ACP（人生会議）について、講演をしていただきました。パネルディスカッションでは、短い時間でしたが、

医 師：吉澤直之先生（吉澤医院）

病院職員：青木久美子氏（産業医科大学若松病院）

ケアマネジャー：北岡大輝氏（新庄整形外科医院居宅介護支援事業所）

訪問看護：境亜希子氏（若松区医師会訪問看護ステーション）

施設職員：植木純子氏（介護老人福祉施設あじさい）



上記5名の方に登壇いただき、各立場から取り組んでいるACP（人生会議）についてお話しいただいた後、参加者も交えてディスカッションを行いました。

2回目：ACP（人生会議）についてのおさらい+グループワーク

1回目に引き続き、清尾氏に前回参加されていない方、忘れてしまった方のために、おさらいとして、ACP（人生会議）について簡単にご説明いただきました。その後、お住まいや事業所の所在地の校区ごとに分かれて、グループワークを行いました。



ACP（人生会議）と聞いてもなかなか耳馴染みのある言葉ではないため、参加された方の約2割の方がアンケートで「（ACPについて）知らなかった」と回答されていました。

住民の方々の最も身近な地域で支援をされている民生委員等の方々は、地域住民の方々とお会いしお話をする中で、地域住民の方のいろいろな【思い＝ACPの種】を受け止めています。その【思い＝ACPの種】はもしかしたら家族も知らないお話かもしれません。専門職の方々は、地域住民の方々が病気になったり、介護が必要な状態になったりしてから関わりがスタートします。地域で支援をしている民生委員等の方々が受け取っている【思い＝ACPの種】を専門職につなげていただくことで、ご本人のずっと大切にしてきた【思い＝ACPの種】を引き継いで、ご本人が望む生活を支援することができるのではないかと考えています。その【思い＝ACPの種】はご本人のこれからの生き方をより良い人生へと支援するための1ピースとなり、ご本人の望む生き方を医療の方面から、介護の方面から、可能な限りあらゆる形での支援へとつながっていきます。そして、『チーム若松』で一丸となって地域住民の方々の望む生活を支援していくことが、若松区の地域包括ケアシステムを盤石なものへと変えていきます。

来年度も地域の支援者の皆様、専門職の皆様と顔の見える関係へとつながる研修会を開催していきたいと考えております。改めてご案内をさせていただきますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。



○10/28（月）には、若松区在宅医療・介護従事者研修会（スキルアップを目的とした研修会）を開催しました。

「在宅・介護現場で活かせる薬へのサポート

～お薬に関連した支援のポイントや薬剤師の役割を知ろう～



若松薬剤師会 理事

アサヒ薬局 代表 井上真由美 先生



今回の研修では、お薬に関する基本的な説明やかかりつけ薬剤師についてなどと併せて、若松薬剤師会の先生方に「在宅訪問薬剤管理指導」等に関するアンケート調査を実施してくださり、その内容を基に在宅医療における薬剤師の支援内容や多職種連

携の重要性についてもご講演くださいました。今回の研修で、お薬に関する問題は共通していても、その方の暮らしに目を向け個々に応じた薬剤管理の方法の検討や、多職種連携の重要性を再認識する機会となりました。井上先生をはじめ、若松薬剤師会の先生方、有り難うございました。

【事例発表の先生方】

